

# 芝生広場ほかの維持・管理 ～芝生の張替え、エアレーション

木原靖正・内田喜章

## はじめに

最近、ホームセンターで容易に芝生が入手でき、一般の人にも身近な存在になっている。一方、大面積の運動場、野球場やサッカー場にも使われることが多く、MAZDAスタジアムやサンフレッチェ広島ホームスタジアムの天然芝はよく知られている。

## 目的

このように芝生は、大きな広場には欠かせないものであり、当園も開園当初から市民、入園者の憩いの場、イベント広場として有意義に利用され、美観、安全性、土砂流出防止、砂ほこり防止、泥濘（ぬかるみ）防止、照り返し・地温上昇の抑制などの目的で張付け、維持・管理をしてきた。

## 乾燥、枯れなどの発生

### ○芝生広場

平成22年夏の高温乾燥で、降雨が1ヶ月余りなく、散水が追いつかなかったため、大部分が枯れ上がった。

### ○展示資料館前法面（写真1参照）

年々、少しずつ枯れが進み、裸地が見えるようになってきた。さらに平成25年2月、周辺にあった過繁茂のハイビヤクシンを一度に撤去したため、裸地が目立つようになり、景観上、問題がでてきた。



写真1. 枯れて裸地が見えるようになってきた。  
展示資料館前法面（ハイビヤクシン撤去前）

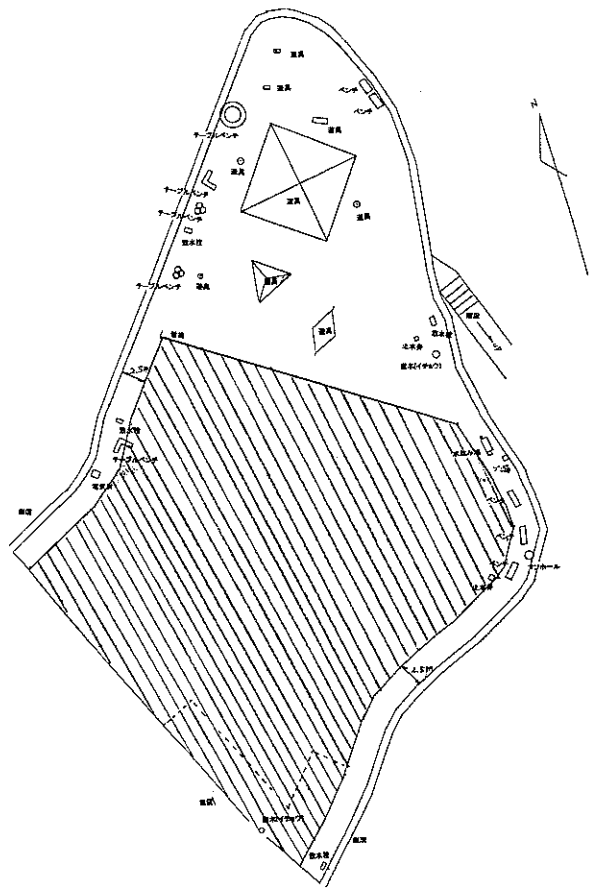


図1. 芝生広場1,468㎡（斜線部張替え）

## 張替えの実施

このため、芝生広場2,394㎡の内、遊具のない区域1,468㎡（図1参照）を平成23年7月11日～20日にべた張り（全面張り）によって張替えた。

また、展示資料館前法面738㎡（図2参照）を平成25年7月1日～5日にべた張りによって張替えた。

品種は、日本芝のコウライシバ。これは、高温多湿に適応したもので、耐陰性や踏圧に強く、最も一般的な種類である。

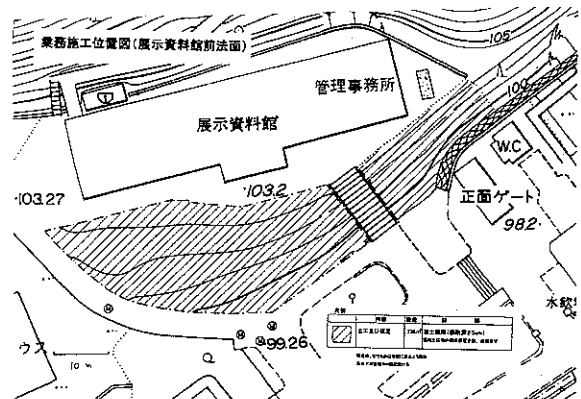


図2. 展示資料館前法面738㎡（斜線部張替え）

### 踏圧による排水不良とエアレーション

平成25年春、芝生広場はさくらまつりとオリエンテーリングのメイン会場になり、多くの入園者が入った。そのため踏圧がひどく、排水不良が発生。

そこで、平成25年5月31日、中央部700㎡（深さ20cm）のエアレーションを実施した。（写真2参照）

### 課題と対応

芝生は、夏場の散水、雑草防止、刈込み、施肥、目土入れ、エアレーション、病害虫防除など、多くの労力や経費がかかる。

特に、夏の高温乾燥が続く年は、一度に広い面積の芝生が枯れるため、細心の注意が必要である。

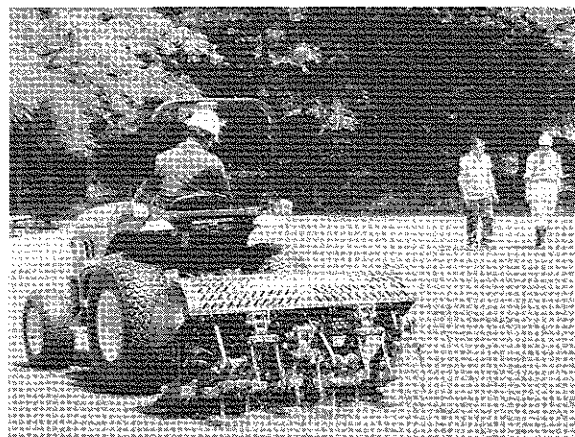


写真2. パイプロエアレータによるエアレーション  
上の芝生広場700㎡